

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目		(1)がん				
指標項目	1	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少 (10万人当たり)	基準値	実績値	目標値	
			H22	H28	R5	
			79.8	70.7	70.0	
	2	がん検診受診率の向上 (市が実施するがん検診の他、職場検診、 人間ドック等を含む)	基準値	実績値	目標値	
			H23	H30	R5	
			肺	19.9%	31.0%	40%
			胃	28.7%	38.9%	40%
大腸			27.9%	37.4%	40%	
乳	46.3%	48.9%	50%			
子宮頸	37.3%	42.6%	50%			
取り組み施策		概要				
1	発症予防	禁煙やバランスのとれた食事等がんに対する正しい知識の普及等を行い、がんの発症を予防する。				
2	早期発見	がん検診について、市民にわかりやすい情報提供や、企業や団体等と連携した啓発等をすすめることにより、がん検診の受診率向上を図る。				
3	情報発信・相談支援	がんサロンの支援やがんの治療、在宅医療に関する情報提供等を行い、患者や家族を支援する。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	芸能人の口腔癌告知によって、口腔癌への関心度が上がっている。引き続き、熊本県歯科医師会が医科と連携して行っている「熊本県がん患者医科歯科連携事業」に対する協力の強化を行う。【市歯科医師会】
	禁煙指導と粘膜を刺激する歯や補綴物への対処。【市歯科医師会】
	6年生体育(保健領域)の生活習慣病の予防、喫煙・飲酒の害と健康でがん予防についても触れている。【楡木小】
	粉じん作業及び特定化学物質、石綿等取扱作業を行う事業場に対する監督指導の実施。【労働基準監督署】
	校区主催の子育てサークルにおいて保健子ども課から来てもらい子育て世代へがん検診の啓発の機会を作った。【西区代表】
2	日常診療における口腔癌発見のための粘膜検査の充実。【市歯科医師会】
	加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含大腸・胃・肺・乳・子宮頸)を実施。【協会けんぽ】
	特定健診受診券送付時、熊本市のがん検診の受け方を詳細に記載した印刷物を同封。【協会けんぽ】
	北区、南区在住の被扶養者に対し、特定健診とがん検診同時受診勧奨DM送付【協会けんぽ】
	「乳がん検診」のテーマで、保健師がシティFM健康サロンに出演し、疾患や検診についてアナウンスした。【県看護協会】
	女性職員が多いので特に「乳がん」「子宮がん」については毎年の健康診断時に検査を進めている。【県看護協会】
	定期健康診断や人間ドックによる職員のがん検診について周知し、受診啓発している。【楡木小】
	じん肺健康診断及び有害業務にかかる定期健康診断の確実な実施の指導。【労働基準監督署】
	熊本市の委託事業として胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん検診を実施した。【市医師会】
	集団検診では、後に続く(日程の)胃がん、大腸がん検診に影響を与える肺がん検診で、スタッフを増員して、現地での広報(広報車)に注力した。【市医師会】
各検診ごとに専門医からなる検診班委員会を設置し、年に数回の班会議を開催し、検診結果等について協議検討をおこない、がん検診の受診率の向上、精度管理の向上に努めた。【市医師会】	
専門医からなる産業医班会議を設置し、協議検討をおこない、職場検診、人間ドック等について受診率の向上、精度管理の向上に努めた。【市医師会】	
3	ポスター掲示による口腔癌の啓発。【市歯科医師会】

熊本地域医療センターにて市民公開講座を開催。がんの診療を中心に医学及び医療について市民に啓蒙をおこなった。参加者145名。【市医師会】

2. 関係機関・団体における今年度からの新たな取り組み

今年度の新たな取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市の委託事業として、胃がん検診(胃内視鏡検査)を開始した。【市医師会】 ・口腔癌発見のスキルを上げるための研修会を行う。新たに始まる成人歯科検診や、後期高齢者歯科健診の受診率を上げて、そこでの健診を充実させる。【市歯科医師会】 ・5月の「看護の日」記念講演会で住民、医療関係者、看護学生を対象に「子宮頸がん」を経験し、活動されている方から「大切にしたい自分の体」と題した講演会と、がん看護専門看護師から「がんになっても自分らしく過ごすために」のテーマで講演を実施した。【県看護協会】
-------------	--

3. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等																
1	<p>子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、がん検診等に関する情報提供や特定健診の受診を啓発。</p> <p>・平成30年度地域におけるがん検診等の啓発実績</p> <table border="1"> <tr> <td>中央区(19校区</td> <td>116回</td> <td>3,039人)</td> </tr> <tr> <td>東区(18校区</td> <td>179回</td> <td>5,378人)</td> </tr> <tr> <td>西区(13校区</td> <td>160回</td> <td>3,502人)</td> </tr> <tr> <td>南区(20校区</td> <td>72回</td> <td>1,081人)</td> </tr> <tr> <td>北区(13校区</td> <td>49回</td> <td>1,070人)</td> </tr> </table> <p>市役所ロビー等などを利用した啓発ブースやイベント等の機会を活用し、受動喫煙に関する情報提供や日常生活における生活習慣病の予防法等について啓発を実施した。</p>	中央区(19校区	116回	3,039人)	東区(18校区	179回	5,378人)	西区(13校区	160回	3,502人)	南区(20校区	72回	1,081人)	北区(13校区	49回	1,070人)
中央区(19校区	116回	3,039人)														
東区(18校区	179回	5,378人)														
西区(13校区	160回	3,502人)														
南区(20校区	72回	1,081人)														
北区(13校区	49回	1,070人)														
2	<p>区内の企業や商工会に対し、従業員のがん検診受診率勧奨のためのポスター掲示及び、受診勧奨依頼を行った。</p> <p>国の指針に基づき、肺・胃・大腸・乳・子宮頸がんの5種の検診を実施した。</p> <p>各種がん検診について、市政だより、市ホームページ、ラジオ、民間情報紙等で受診勧奨の広報を実施した。</p> <p>満40・50・60歳になる市民全員にがん検診勧奨ちらしを送付した。(平成30年8月28,857人)</p> <p>満20・22・24・26・28・30・32・34・36・38歳になる女性に対し子宮頸がん検診受診勧奨通知を送付した。(平成30年9月40,986人)</p> <p>乳がん・子宮頸がん検診において、対象年齢となる偶数年齢者の受診期間を5月末まで猶予する特例受診許可証を発行した。</p> <p>特定年齢(62、65、68歳)を対象に肺がん・胃がん・大腸がん検診の巡回日程ちらしを個別送付した。(29,318人)</p> <p>協会けんぽやがん対策協定企業等との連携による受診率向上のための啓発を実施した。</p> <p>・協会けんぽ扶養者への特定受診券送付時に市がん検診の案内を同封</p> <p>協会けんぽ加入者に、集団検診の受診勧奨を実施した。(植木・城南地区の集団検診)</p> <p>がん対策を推進する企業1社とがん対策企業等連携協定を締結した。(H31.1.30)</p> <p>乳がん及び子宮頸がん無料クーポン券の送付(乳がん・40歳:5,036人、子宮頸がん:3,750人)及び再受診勧奨はがきを送付した。</p> <p>ピンクリボン月間に合わせた生命保険会社の協力による保険外交員からのがん検診受診勧奨(リーフレット等)</p> <p>平成30年11月～平成31年2月に大腸がん検診の郵送検診を実施した。</p>															
3	<p>働き世代や子育て世代を対象にしたがんサロンを毎月1回開催し、がん患者を支援。(平成30年度は12回)</p> <p>がんに関する悩みや不安への相談対応及び治療法に関する情報発信等を行う「がんサポートセンター」を開設。平成30年度相談件数:84件、がん患者大交流会を開催(1回)</p> <p>「熊本でがんと共に生きる」(がんに関する講演会と相談会)を開催(H31.1.27)</p> <p>図書館と連携した啓発を実施。くまもと森都心プラザの図書館に、がんに関連する資料を設置。(各種がんに関するパンフレット、がん相談・がんサロンの案内リーフレット、検診の案内、熊本県版がん情報冊子等)</p>															

4. 行政における今年度からの新規取り組み

今年度の新たな
取り組み

- ・胃がん検診内視鏡検査導入(3月開始)
- ・乳がん・子宮頸がん検診次年度対象者への受診勧奨を実施する。
- ・満42・44・46・48・52・54・56・58歳になる女性に対し乳がん検診受診勧奨通知を送付する。
- ・70歳以上の方の自己負担金無料化(4月開始)